



## 『キリスト・イエスにつく者!』(要旨)

ガラテヤ 5・22～26 説教者 原田憲夫

今週の聖句 ガラテヤ 5・24

賛美：[説教前] 教会福音讃美歌 387 番(1,2 節), [説教後] 同 325 番(1,3,5 節)

感謝しつつ主のあとについて行く喜びをどこかに置いてきていませんか？

使徒の時代に誕生したコロサイにある「聖徒たち」の群れに、あるユダヤ神秘主義の影響を受けた異なる教え-民族の慣習、特殊な知恵偏重主義(グノーシス)-が入ってきて、その結果、キリストの十字架に現れた神の愛、神の恵みによって生きることを軽んじる人々が出てきました。そして、感謝しつつ主のあとに従う喜びを忘れたかのような羊の群れとなっていました。

そこで使徒は改めて、キリスト信者が心に刻まなければならないのは“キリストが示された徳”- 品性であると伝えます。

今日の箇所は、それをご聖霊によって歩む人が結ぶ「御霊の実」と呼び、聖い道をはっきり示します。

## 【1】「御霊によって歩みなさい」(5・16)

(5・16)「私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。」

私たちキリスト信者は主の十字架により主を信じ、罪の力から解放され、自由にされている者たちです。ところが残念ながら、その「自由」を間違え(5・1)、「放縦」に変えることもあるのです(5・13)。

「肉の望むことと御霊が望むことは互いに対立している」(5・17-18)

<肉のわざ>の三つの面(5・19f.)

- \* 神に対して：偶像礼拝、魔術
- \* 隣人に対して：敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ
- \* 自分に対して：淫らな行い、汚れ、好色、酩酊、遊興…そういった類のもの。

▶ 「肉の思い-神への敵対」(ロ-7 8・7)

「肉の欲望」を断ち、聖い生き方を求めるには、ご聖霊の助けがどうしても必要なのです。

## 【2】「御霊の実」を結ぶ人 (22-23)

「御霊によって歩む」ことは、何か特別な神秘体験をすることでも特殊な知恵(グノーシス)を必要とすることでもありません。十字架の中に現れた神の愛、キリストのいつくしみの心を、キリストを信じるその心に映し出していただくことなのです。

「御霊によって歩む人」だけが、「真の自由」を保ち続け、「御霊の実」を結ぶことができます。

<御霊の実>の三つの面(22-23)

- \* 神に対して：愛、喜び、平安
- \* 隣人に対して：寛容、親切、善意
- \* 自分に対して：誠実、柔和、自制

▶ 「御霊の思い-いのちと平安」(ロ-7 8・6)

## 【3】「キリスト・イエスにつく者-御霊(聖霊)によって進もう!」(24-26)

私たちが「互いに挑み合う、ねたみ合う」といった優越感や劣等感に左右される時、「虚栄」や「うぬぼれ」に走ります。→ロ-7 12・3。

ですから、自分の肉を情欲や欲望とともに十字架につけて断ち切るのです。

忘れないで下さい。主が私たちに求めているのは、自分を捨て、日々十字架を負い、主のあとに従うことです(ルカ 9:23)。→ロ-7 8・26

▶ 「御霊によって導かれている(受動)なら」、「御霊によって進もう(能動)ではありませんか!」そこに「御霊の実が結ばれる」のです!

## 【勧め】

・「主のようになること」(教会福音讃美歌 325 番)  
「キリスト・イエスにつく者」は、「自分を捨て、日々自分の十字架を負い、御霊に導かれて主のあとに従います! 喜び歌いつつ、感謝しつつ!

- \* 祈り
- \* 賛美

